



新崎川に柱状節理の滝があると聞いたのは4年ほど前だ。よく城ヶ崎の海岸で見る鉛筆が並んでいるような奇岩のことだが、滝になっているのは見たことがない。いつか行こう行こうと思っていたが、とにかく情報が少なくネットでもあまり見受けられなかった。それならばいっそのことあまり余計な情報は見ずに計画を立てたことにした。

急な寒波がきているらしく、東京は少し肌寒かったが、湯河原の駅を降り立つとさすが暖かく、幕山公園でバスを降り林道を歩いていると少し汗もかいてきてフリースを脱ぐほどだ。

入渓地点をどうしようかと思案しながら歩いていると、通行禁止の青い鉄柵が出てきたので、右脇に登山道に入り込む。いい加減どこかで入渓したいと思っていると白銀橋というコンクリートでできた橋を見つける。

橋を渡り少し先に降り口を見つけて装備を整え早速入渓する。入ってすぐにゴルジュに出くわす。こんな小さな沢に立派なゴルジュ帯があるとは思わず気分も高鳴ってくる。ゴルジュをぬけると、ナメ滝もでてきて、ここは一体どこなのだろうと驚かされた。

所々釜を伴った数メートルの小滝もあり、どれも簡単に登れておもしろい、そうこうしているうちに4m弱の滝にでてきた、これを登り切ると、またナメ滝が出てくる。小滝とナメの連続である。ここは

かなりあたりだろう思わずほくそ笑んでしまう。

本来はどこかの枝沢に入り柱状節理の六方の滝を見たいが、どこの枝沢だか分からない。諦めて登って行く内にポンプ小屋に到着した。地形図を見る限りではそろそろ登山道と合流しそうだ。

二俣に分かれたので右へと入るとやっと10m弱ほどの滝は水量は少ないもののこれまた下部がえぐられていて面白そう、連れがいればロープを出した方が良さそうだが、さほど難しくもないのでフリーで登り切る。そうこうするうちに小さな堰堤に出くわしてその先に苔むした橋を見つけ登山道となった。

実は問題は下山道にあった。倒木が多くわかりにくい。注意しながら歩いていたら林道らしい道に出くわしたが、地形図には載っていない。これは伐採作業用の作業道に違いない。

これを渡って登山道があるはずだが見つからない。しょうがないので林道を利用して進むと思った通り、伐採場の跡に着いてしまい行き止まりとなる。この下の200mに登山道があるらしいが、ここからはか



(最初のゴルジュ滝)



(小さなナメ滝)



(最後の10m弱の滝)

なりの急勾配である、降りるかどうか思案する。

大きな山よりもこういう小さな山の方が、道迷いによる遭難リスクは高いといつも思っている。ただ沢をやっていればこんなことは日常茶飯事ではあるが、念のために最悪の事態を想定するようにする。食料は節約すれば3日分あるよね、水は心許ないが行動不能にならない限り沢水があるし、衣類はフリースとダウン、それにビバーク用にシートもあるので気温が0度までなら経験上耐えたことがある。などと装備の確認をして、うん、これなら降りてもいいなと判断。登山道は見つからなくても、最悪さっきまで歩いていた新崎川には辿り着くので、これから別山尾根を登るよりは安全だし時間内にもどれる。

ロープは必要ない沢だとは思っていたが、かならずお守りとして持ち歩いている。なくても降りられそうだが肩がらみで下降してしばらくすると案の定、林業作業用の薄い踏み跡にでた、そのまま進んでいくと登山道に出すことができた。

今回は赤テープを持って下山道を開拓してみようかなあって思った。

(了)